

日本一

酒田・飽海米づくり情報

緊急号
平成22年7月28日発行

酒田農業技術普及課 酒田市若浜町1-40
TEL 0234-22-6521 FAX 0234-22-6522

出穂 早まる！！
8月前半は高温で経過する見込み
出穂開花期は丁寧な水管理の徹底を！

高温に関する異常天候早期警戒情報

平成22年7月27日14時30分 仙台管区气象台 発表

要早期警戒	警戒期間	8月1日頃からの約1週間
	対象地域	東北地方
	警戒事項	かなりの高温（7日平均地域平年差+2.7以上）
	確率	30%以上

梅雨明け後の高温多照により幼穂の発育が早まっており、7月中旬の巡回時の予測より出穂が早まっています。

「はえぬき」「ひとめぼれ」は8月3～5日頃に出穂期になるとみられます（平年より5日程度早い）。出穂前後の管理作業が遅れないよう注意しましょう。

出穂後20日間程度高温が続くと、**白粒の発生や、胴割粒の発生**が心配されます。過去の苦い経験を繰り返さないようにしましょう。

過去の高温年での酒田飽海地区の一等米比率

平成6年	45%（乳白粒等の多発）
平成11年	6%（乳白粒等の多発）
平成18年	87%（胴割粒の多発）

今後の管理について

1、水管理
出穂・開花時は多くの水を必要とします。昔から「花水」と呼び重要視していました。出穂期前から湛水管理として、穂揃期まで継続しましょう。その後は、土壌に水分のある状態で間断かん水をしましょう。
出穂期後高温が続く場合は、**湛水状態（飽水管理）を保ち**、ほ場内を冷やすことが大切ですが、地域の水利ルールを遵守し、こまめな水管理をしましょう。

2、病虫害対策
出穂・開花が早まることから、防除適期を逃さず対応しましょう。
6月下旬～7月上旬にイネアオムシが発生したほ場では、2回目の発生が7月下旬～8月上旬にピークを迎えます。今回は止葉等を食害します。被害が心配されるほ場では適用のある農薬で対応しましょう。

熱中症・農作業事故に注意して作業しましょう！！